

平成29年第10回教育委員会会議録

日時：平成29年8月2日（水）

午後9時開会

場所：教育委員会室

出席委員	委員	庄山昭子
	委員	上島均
	委員	滝澤多佳子
	委員	富田昌平

出席者	教育長	倉田幸則
	教育研究支援課長	伊藤雅子

教育長 平成29年第10回教育委員会を開催します。傍聴はございません。本日の議案の概要説明をお願いします。

教育次長 それでは、本日の議案の概要でございますが、第31号 平成30年度使用小学校用教科用図書（道徳）の採択について、1件の議案について、審議をお願いします。詳しい内容につきましては、それぞれの担当課長から説明させていただきますので、よろしくお願いします。

教育長 本日の議案は、お手元の事項書のとおり、議案第31号の議案1件です。議案第31号につきましては、津市教育委員会会議規則第16条第4号の規定に該当するため、非公開としたいと思っておりますがいかがでしょうか。

各委員 異議なし。

教育長 御異議ないようですので、非公開と決定します。

議案第31号 平成30年度使用小学校用教科用図書（道徳）の採択について
議案第31号 非公開で開催
議案第31号 原案可決

教育長 それでは、時間になりましたので、平成29年第10回教育委員会を開催いたします。それでは、本日の議案の概要説明をお願いします。

教育研究支援課長 失礼いたします。教育研究支援課長でございます。それでは、本日の議案の概要でございますが、第31号「平成30年度 使用小学校用教科用図書『道徳』の採択について」、議案1件の御審議をお願いいたします。

教育長 本日の議案はお手元の事項書のとおり、議案 第31号の議案の1件です。議案 第31号につきましては、津市教育委員会会議規則 第16条 第1項 第4号の規定に該当するため、「非公開」といたしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。御賛同いただいておりますので、それでは、議案 第31号につきましては、「非公開」と決定いたします。ただ今から、議案 第31号「平成30年度 小学校用教科用図書『道徳』の採択について」、「津市教科用図書調査研究委員会」からの調査研究結果も参考に審議をいたします。皆様には、「平成30年度 使用小学校用『特別の教科 道徳』教科書選定に関する参考資料」と、「平成30年度 使用小学校用『特別の教科 道徳』教科用図書 調査報告書」を事前

に送付させていただいております。また、本日は対象となる道徳の教科書の見本も用意しております。お手元の資料「平成29年度教科書展示会開催状況」とあわせて、必要に応じて御覧いただきたいと思います。なお、今回の教科書採択をより適正におこなうために、対象となる8社の見本についての調査研究結果を充分把握したいと思いますので、「津市教科用図書調査研究委員会」事務局、及び調査員の代表者からの説明を求めます。それではまず、調査研究委員会事務局から、調査研究の経緯等について報告をしてください。

教育研究支援課長 はい。

教育委員会 教育研究支援課長。

教育研究支援課長 調査研究の経緯について、御説明をいたします。5月16日に「第1回 調査研究委員会」を開催し、調査実施事項を決めると共に、当該調査研究委員会に小学校の校長・教諭、及び、保護者代表者から成る「調査員」を置き、調査研究をおこなうことを決定いたしました。また、開かれた採択に向けて、調査研究委員会の委員に2名、調査委員会の調査員に1名、保護者の代表者から参加いただいております。調査員は、道徳の見本について調査し、調査結果を「平成30年度 使用小学校用『特別の教科 道徳』教科用図書 調査報告書」にまとめました。7月19日には、「第2回 調査研究委員会」を開催し、調査員代表からの調査報告を受け、その報告をもとに協議いたしました。なお、調査及び研究においては、三重県教育委員会において作成された「平成30年度使用小学校用『特別の教科 道徳』教科書選定に関する参考資料」を参考にいたしました。また、教科書展示会において、来会者からいただいた御意見等につきましても、参考にしております。以上でございます。

教育長 ただ今の「調査研究の経緯の報告」につきまして、御質問、または御意見などありましたらお願いします。よろしいですね。それでは、調査員の代表から、各見本の調査結果について、説明をお願いしたいと思います。それでは、荻原調査員。

荻原調査員 失礼いたします。調査員の代表としまして入らせていただきました おぎはらと申します。よろしく願いいたします。それでは、順番に言っていけばよろしいですか。

教育長 はい。お願いします。

荻原調査員 それでは、「教科用図書調査報告書」を御覧ください。全てをお話していると、ものすごく時間がかかりますので、特徴的な部分を東京書籍から順に、お話をさせていただきます。それで、「1年生・6年生がやっぱり中心かな」と思いますので、例に出させてもらうのは、大体6年生を中心にさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。まず、「東京書籍」です。ページをめくってもらおうと、「いじめのない世界へ」というタイトルをつけていただいているように、いじめ問題をしっかり取り扱っている教科書です。その教材は「直接的な教材」と「間接的な教材」と2つ連続して配置して、重点的に指導できるようになっています。6年生で言いますと、56ページの「ばかじゃん！」という、子どもがついつい言ってしまう言葉を真に受けてしまって、仲がギクシャクするというお話です。東京書籍の6年生、56ページを御覧ください。ここにも「いじめのない世界へ」と書いて、「大切にしたい相手も自分も」というような例になっていて、その後、教材文があるという配置になっています。これは、いじめ問題に直接指導できるような題材で、その後の61ページから、「ピアノの音が……」ということで、住民がピアノの音に悩まされているということで、「法やきまり、権利と義務」というところの内容項目での教材文ですけれども、こういうふうに2つ連続して配置されているのが、この教科書の特徴です。それから、2つ目の大きな特徴として、日常で起こりそうな場面をあらわした教材、この6年生で言いますと、110ページ、「せんぱいの心を受けついで」というところです。御覧ください。栽培委員の仕事をしていて、気が進まなかったのだけれども、低学年の見本となるように頑張った。また、地域の人が、昔からこういう委員会を支えていた、という内容で、地域の人思いも知って、一生懸命やる、というようなことが書かれている教材です。こういった作品、それから、困った場面のままで終わって、その後を考えさせるような教材。80ページから83ページ、「空きかんのゆくえ」。こういう作品も配置されていて、主体的に考えたり、議論したりするのにふさわしい教材が、いくつか用意されているのが特徴です。それから、3つ目の大きな特徴として、他教科の学習につながる教材が用意され、それが何の教科とつながるのかも明記されています。また、5～6年生では、戦争に関する内容を扱った教材も用意されています。44ページ「白旗の少女」を通して、感動的なお話で、44ページをゆっくり見ていただくと思います。それから、115ページの「義足の聖火ランナー」、150ページの「東京大空襲の中で」といったものが、子どもたちの心を打つような内容になっています。それから、最後の大きな特徴としまして、各学年とも学習を振り返るページがあって、書く際に応用が利くように、自由度の高い記入スペースになっています。6年生で言いますと、183ページ。もう巻末に近いところです。

こんなふうに自由度の高いスペースになっています。中学生の自分にメッセージを送るような形になっています。以上、大きな特徴を東京書籍、挙げさせていただきました。マイナス面の報告も行います。

教育長 どうぞ。

荻原調査員 調査員の中で話をしたときに、「出典や作品が最後にまとめて書いてある」。「著作関係者」というところで、道徳をやるときに、子どもたち自主的にやったり、主体的にやるのに、調べ学習したりすることもあるので、本文の後ろとか前とかにそれがあるほうが子どもたちには良いのかな、というのが出ていました。これが、東京書籍です。

続いて、「学校図書」です。6年生を例に挙げさせていただきながら、お話をさせていただきます。きれいな柄の、教材文を扱う「読みもの」と、書き込みや体験的学習を促す「活動」に役割を明確化した分冊形式になっているのが、大きな特徴です。低学年から読みものが豊富に用意されていて、間には、「読みものコラム」のコーナーがあります。例えば6年生で言いますと、32ページの「だから言ったのに」というところの後ろに、オリンピックのコラムがあります。一応、特徴として挙げさせてもらうのですが、違う内容のコラムがピュッと入ってくるので、「これは使い方がちょっと難しいな」という感じがします。それから、「活動」には、それぞれの「読みもの」の中の教材を通して、「やってみよう」「かんがえよう」「はなしあおう」「みつめよう」に分けて学習するようになっています。こちらの分冊、例えば6年生で言いますと、4ページを見てください。薄いほうの4ページ。「私の知らないところで」のところの教材文。74ページに対応するページとして、この4ページにあるのですが、それでも、「やってみよう はるかともみきはどんな気持ちからメールを送ったのでしょうか」「かんがえよう だまって下を向いてしまった はるかともみきはどんなことを思ったのでしょうか」「みつめよう」と、こういうふうに「活動」のページで子どもたちにいろんなことができるようになっています。分けて学習するようになっています。また、適宜書き込むスペースも設けられています。このノートが内容項目ごとに分けてあるのだけど、教科書の順番とは違いますが、評価のときに例えば、この先ほどの4ページであれば、「善悪の判断、自律、自由と責任」について学習した内容がここに載っているので、評価のときには、参考にしやすいのかな、活用しやすいのかな、ということになっています。それから、大きな2つ目の特徴として、低学年からソーシャルスキルトレーニング的な内容を含んだ教材も用意されています。6年生のノート「活動」の17ページを御覧ください。「相手の思いに寄りそってみよう」という題目で、トレーニング的な内容を含んだ教

材も用意されています。さらに、保護者に自分の良いところを書いてもらう。これは低学年ですけれど、このようなページもあって、また、その「活動」の最後に「この教科書で目指すこと」などを保護者向けに書いてあったりするのですが、特徴でございます。ちょっと、調査員からの意見としましては、先ほども言いましたが、「読みもの」に「読みものコラム」のコーナーがあって、「活動」にもコラムがあり、「活動」のコラムは、その内容に関わっていますが、「読みもの」のコラムがその教材文とは関係ない。関係ないというか、関連性のないコラムが入っているので、「どのタイミングでこれを学習するのか」というのは、ちょっと悩むところでございます。それから、「1年生、入学後の1学期の早い時期の教材が、大変文字が多い」というのが、少し気になるところです。もう早速、吹き出しに1年生の子に書かせるようなところもあるので、ちょっとこれ、入学すぐには「ちょっとどうなのかな」という意見が出ておりました。これが「学校図書」でございます。

次に「教育出版」です。これも6年生を中心にお話させていただこうかな、と思っています。『はばたこう明日へ6』と書いてある教出の本です。ここが一番大きな特徴は、ほかの教科書は全部、内容項目が低学年で19、中学年で20、高学年で22あるんですけれども、それがバラバラに。高学年であれば、「節度・節制」というのが、始めのほうに出てきたと思ったら、もう1回出て来るとか、重点項目であれば、2回、3回出て来る場合があって。ところがこの「教育出版」は、その内容項目がまとまって学習するようになっていきます。それが大きな特徴です。一応、小学校の年間の行事を意識して配置されたり、自分自身に関する教材を1学期に多く配置する、というような配慮はされています。そして、最後に「補充教材」が用意されていて、重点項目というのは、各学校や児童の実態に応じて、入れ替えしたりすることができるわけですけれども、そういったことができるような教材が、後ろに5点ほど用意されているのが大きな特徴です。それから、大きな特徴の2つ目として、「いじめをなくす」とか「情報モラル」、「生命尊重」の3点に特に重点を置いて、教材が位置付けられています。身近で起こりうるような内容、6年生で言いますと、36ページ、「食事中的メール」ですとか、それから「傍観者もいじめているのと同じ」といった内容を扱っている「いじめをなくすために自分としてどんなことができるか」ということ、そんなことを考えられる作品です。6年生の78ページ、「ひきょうだよ」。こういったもの。それから、戦争に関連した教材も配置されているのが特徴です。そういった特徴は、どこの教材、どこの教科書会社もやっていることなんですけれども。それから、3つ目の大きな特徴として、各学年、2～3点、「スキルトレーニング」が取り入れられています。6年生で言いますと、40ページ。「やってみよう スキル」と目次に書いてあると思いますけれども、「安全について みんなで考えてや

ってみよう」というようなページがあります。ただ、三重県は『防災ノート』もあって、「ちょっと重なるようなところもあるかな」という感じを受けました。それから、調査員の中からは「振り返りのページがやや少ない」という意見がありました。他社が割と書き込んだりするところがあったんですね、最後に1年間のまとめの学習を振り返るのが1ページ載せられていて、少しその辺りは少ない。授業するときには、いろんなペーパーを使ったり、ワークシートを使ったりする部分はあるかと思いますが、少し振り返りページが少ないかな」というところが出ていました。それから、ここも教材ごとの出典の記述が後ろにまとめられております。「著作者」というのが、まとめてあります。その辺りが少し気になるなというのと、先ほど一番初めに言いました、内容項目ごとの配列になっているので、大きな特徴なんですけど、その部分の使い勝手が学校によってどうなのかという思いはあります。以上、「教育出版」でした。

続いて、「光村図書」です。これも6年生を中心にお話させていただきます。この表紙とか、見返しとか、ページが6学年通じて統一的に出来ております。「みんな生きてる みんなで生きてる」をテーマに掲げ、全学年、生命の尊さに力点を置いて、教材を3点、挙げています。その1つを「生命誌研究所」の中村桂子さんによる書き下ろし教材となっていて、1年から6年までこの中村さんが書かれた教材を読んで勉強する、命について学びが深められるようになっていきます。6年生で言いますと、134ページ、「命とつながる」という教材です。ただ、大きな特徴として挙げさせてもらったんですけども、あまり子どもたちに感激とか、「そういうのがやや少ないのかな」という感じがします。ただ、考えさせる教材にはなっています。それから、大きな特徴の2つ目として、物事を多面的・多角的に捉えることができるように、低学年では2カ所、3年生以上は5カ所、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設けられています。6年生で言いますと、159ページ「私には夢がある キング牧師のお話」と、それから、「差別を許さない」ということを教えてくれる教材なんですけれども、164ページ「エルトゥール号」。「友好のはじまり」ということで、難破した船を助けて日本とトルコの友好を築いた。それで逆に、日本人もトルコの人たちに助けられたという、すごく良い話が載っています。この2つのお話と、さらに後ろに「差別のない社会をみぞす」というコラムが付いていて、しっかり考えられるように工夫されています。それから、大きな特徴の3つ目として、全学年、4つの学習のまとまりの終わりに、学んだことを書き留めておく「学びの記録」があります。1学期に2回、2学期の終わり、あと3学期の終わり、ということで4回、「学びの記録」があります。6年生で言いますと、38ページを見ていただくと分かるかと思いますが、自分の記録的なもの、振り返りを書けるような場所がございます。それから、光村図書はユニバーサルデザインやジェンダーの視点

がよく配慮されています。「女の子がいつもピンクとか赤とか着ているような服じゃないように」とか、「女の子のお医者さんの絵があつたり」とか。そういうことが一応気にして、気遣って作ってもらってある、というところが大きな特徴です。ただ、調査員からは、ここ、国語の教科書でずっと使っていますので、「ちょっと国語的だな」と。特に1年生のはじめ、生活科に近いような教科書になっていたり、「ちょっと国語かな」と思うような教材がまあまああるな、というのを、印象として受けました。

続いて、「日本文教出版」です。これも6年生を中心にお話させてもらいます。

『『よりよく生きる力』を育むこと』をコンセプトに作成されている本で、ここにも「道徳ノート」が付いています。それから、付録の教材が3～4つ後ろに付けられているのが特徴です。付録によって、「学校の実態に応じて入れ替えられる」というところです。ただ、調査員からも「付録も良いけども、今まで道徳のとか、人権教育の中で自分たちが実践してきた教材もあるので、それと入れ替えるほうが、教員にとっては良いのでは」という点から、特徴としては御説明させていただきますが、学校で使うほうとしては「どうかな」という意見が出ていました。また、「道徳ノート」の特徴ですけれども、「読みもの」の後の問いと、ノートがきちんと対応していますので、それは特徴なのですけれども、さらに、「友達の考え」も書くようになっていきます。例えば、6年生のノートを見てもらいますと、教科書は24～27ページ、「言葉のおくり物」というページを見ていただきますと、男の子と女の子がいきなり冷やかされて、それでも、という感じのお話なんですけれども、後ろの27ページに「考えてみよう」というところがあります。「教室のあちこちから拍手が起こったとき、一郎やみんなはどんな思いでいたのだろうか」というのが、「考えてみよう」にあります。ノートの6ページにも、同じようなことが書いてあって、それについて書き込みます。さらに、「他と意見を交流しあって、どう考えたのかな」というスペースもあるというのが、大きな特徴です。このノートは、内容項目ごとではないので、教科書の順番どおりのノートの配置になっている、という点も特徴です。ですが、評価のときには、同じ項目が重点項目で何回かあるところは、そちらとこちらを見比べて評価をしなければならない、というところもあるので、「少し手間がいるかな」というところもあります。それから、特徴の大きな3つ目として、「心のベンチ」があります。しっかり考えさせるように、教材文の後にさらに発展的な内容のコラム的な文章が入っています。6年生で言いますと、14ページ「ほんとうのことだけど……」という教材と、それから、20ページ「それじゃ、ダメじゃん」、そして、24ページの「言葉のおくり物」の後に「いじめについて考えよう」というコラムがあって、深く考えられるようになっていきます。この「心のベンチ」が大体、6年生で6箇所、設けられています。これが大きな特徴です。続けても

いいですか。

教育長 はい。

荻原調査員 続いて、「光文書院」です。この「光文書院」の大きな特徴は、「オリエンテーション」にあります。冒頭、6年生のページを開いてもらおうと、目次があって、その次、「さあ、道徳の学習がはじまります」の後、「道徳の時間は、こんな時間です」「いろいろな場面で」「あなたはどんな自分になりたいですか」「この本の使い方」と、結構ここがどの学年も充実しています。「オリエンテーション」を配置して、道徳科で学ぶ内容を明らかにして、道徳性を養う意義を児童が理解し、主体的に学習に取り組めるようになっていて、どの学年でも大体8ページ割いています。ほかの会社は大体2ページ程度で、次に多いのが「東京書籍」ですけれども、「これが一番トップで多かった」というのが特徴です。それから、特徴の2つ目として、「学びの足あと」が巻末に用意されていて、毎時間の「学びの足あと」をバーッと書けるようになっていて、「評価のときはこれを1枚見たら分かりやすい」というのはあると思います。それから、低学年は文章ではなくて、顔の絵を塗ったりするような配慮もされています。特徴の3つ目として、「内容の選択及び項目」の4つ目にも書いてありますように、より深く考えさせたい内容を重点課題として連続的に扱う教材が設定してあります。ほかの教科書会社もよく似たことをやっていますけれども、6年生で言いますと、139ページ。「命かがやかせて」という題があって、その後に「生命のメッセージ」。交通事故で息子さんを亡くされたお母さんのメッセージが載っている生命の尊さを考えさせる教材、その後に144ページ「命と向かう人生」。これも津市でもよくやっていますが、殺処分、保健所でやってもらって捨てられたペットの殺処分のことについて考える教材もあります。それから、148ページ「負けないで」。ここにある3.11の取り上げかたも「とっても良いな」という感じがします。それらがまとめて配置されております。さらに、ここも「付録」が5～6点、付いていて、学校や地域や児童の実態によって、入れ替えられるようになっているのが特徴です。ですから、35時間分じゃなくて、40時間分の教材文が配置されています。大きな特徴は以上です。

続いて、「学研」。並べてもらおうと1番大きい判になっています。「プラス思考・未来志向」をコンセプトに作られた教科書で、魅力ある教材が並んでおります。私たちが読んでいて、良いなというか、これは子どもたちに響くなというような教材がたくさんありました。例えば6年生で言いますと、128ページ。これも皆さん記憶に新しいのではないかな、と思う「ラッシュアワーの惨劇」。いろいろ賛否両論あるというのは聞きますけれども、子どもたちは素直に読める教材

ではないかなと思います。それから、138ページ「鬼の銀蔵」。いじわるな高利貸しの銀蔵さんの話なのですが、最後、なんかホッとのお話で「飽きさせない」というか、いろんなタイプの教材が並んでいます。それから、148ページ「心にふく風」。レストランのやり取りでのお話なのですが、「考えさせる内容かな」というのが並べてあります。それから、最重点テーマを「いのちの教育」として、6年生では「感じよう支え合ういのち」として、連続で3つ教材を配置しています。内容項目は違うのですが、「いのち」を題材に連続した教材が並んでいます。6年生で言いますと、88ページ「命を見つめて」という、87ページに少しイントロダクションがあって、88ページから「命を見つめて」で、13歳で生涯を閉じた瞳さんの一生について書かれています。それから、その後、「マザー・テレサ」で、社会に尽くすという、マザー・テレサのお話が載っていて、最後に「光をともした『魔法の薬』」。ノーベル医学・生理学賞を取った大村智さんの生き様に学ぶ、という教材が配置されています。それから、大きな特徴の2つ目として、いじめ防止につながる教材が多く配置されています。これはどこの教科書会社もそうなんですけれども、6年生で例えば46ページから49ページ「お別れ会」。結構リアルなお話です。話が完結してなくて、考える内容になっています。63ページから69ページは「ロレンゾの友達」。これは、結構たくさん取り扱っている有名な教材文です。「友達を信じる」というような内容の話です。それから、78ページから81ページ「ひとみと厚」。男女の仲良しを冷やかす、良く似た教材、どこの会社にもありましたけれども、「ひとみと厚」。それから、110ページから113ページの「会話のゆくえ」。これ、調査員たちはかなり評価していました。ネットモラルですが、携帯の画面がそのまま出ています。中学校になった途端にこういったトラブルが発生するので「6年生できちんとうこういうことを学習することは必要だ」というような意見が出ておりました。それから、114ページから119ページ「ブランコ乗りとピエロ」。人の見方について考えるみたいな、それから、136ページから137ページ「行為の意味」。思いやりや心遣いについて考える内容。こういった教材が配置されています。それから、これは唯一、この会社の特徴である、どの学年も教材文が見開きから始まっている。こういうふうなページを配置して、必ず向かって右側から本文が始まっているというのが、大きな特徴です。そして、一番大きいので、文字が大きいです。先ほどの光村さんもすごく力を入れて作ってもらってあったのですが、「やや文字が小さいな」という印象です。ここが一番、文字が見やすく、適宜書き込むページもあるというような特徴です。

最後、「あかつき」に行かせていただきます。ここも6年生を中心にお話させていただきます。豊かな自己の形成を目指して、小学生の道徳。「読みもの」で考え、話し合っ、「道徳ノート」で自分を見つめる、考える、という構成にな

っています。ここもノートが付いているのが特徴です。例えば教材文、12ページ「心は変わる」。これは、テニスの錦織選手のお話です。この教材文の終わり15ページに「学習の道すじ」として、「この教材文でこんなこと考えてみましょう」とか、学習を広げるような内容が書いてあって、いくつかの問いがあったうえに、それに対応するノートには、対応するノートの8ページになるんですけども、ここの直接的な勉強は多分ここでやって、こちらにはこの内容項目、この教材文の内容項目に関わる文章が載っていて、違う問いの書き込みができるような内容になっている、というのが、ほかのノートとは違います。勉強したことと、こちらに書き込むことが違うので、「ちょっと混乱しないかな」というのが、この「あかつき」のどうかなという点です。それから、さらに学習したことで感想を書く。その横のページ、9ページ。「今日の授業で感じたことや考えたことを書きましょう」というふうになっているので、授業の流れを作るのが結構、難しそうだなという感じを受けました。それが大きな特徴です。

2つ目として、これはあかつきさん独自なんですけれども、5年生と6年生に同じ題「章太と孝治」という教材を配置して、続きものになっています。5年生では「章太と孝治 一二つのえがおー」というお話で、6年生は、44ページ「章太と孝治 一かげぼうしー」となっているんですけども、男の子同士の友情の中に女の子が入ってきて、というような、ちょっと微妙な思春期にふさわしい教材が5年生と6年生に配置されていて、関連を持って勉強できるような配置になっています。それから、3つ目の特徴として、これもどこの会社もやっていることなんですけれども、生命の大切さやいじめ防止の教材が配置されています。それから、ここも「教科書の後ろに作者名がまとめて一覧になっている」というのが、気になるところです。以上、8社の一番特徴的な部分を述べさせていただきました。

教育長 ありがとうございます。8つ、特徴的なところに絞って、御報告をいただきましたけれども、今までの報告につきまして、御質問等ありましたらお願いいたします。

上島委員 質問ではないのですがよろしいですか。

教育長 はい、どうぞ。

上島委員 今、言われたことは、例えば、強調的に言われたこと、例えば「こういう面が」というようなのがありましたよね。それが、調査員としての一つの観点として考えたことですか。

荻原調査員　そうですね、はい。教科書の作成者の意図や特徴的なことを一応、挙げさせてもらって、それに対するコメントを入れさせてもらったんですけれども。

上島委員　調査に対する基準のときに、さっき言われた、例えば「これは後ろにしか載ってない」、そういったことが、調査の基準として考えたことですね。

荻原調査員　そうですね。はい。

教育長　よろしいですか。もうかなりの教科書量ですので、この報告書もさまざまなところから書いていただいておりますので、ちょっと時間を取って、いろいろと御質問等、受けたいと思いますけども。

教育長　庄山委員。

庄山委員　ちょっと基本的なことをお尋ねしますけれども、道德の授業で教科書を使って授業をするんですけど、これは当然ですけど、そのときにですね、想定しているのが、教科書とそれからノート等を使って、あるいは、板書をしたりというようなので、「普通の授業のように進めていく」という考え方ですよ。

荻原調査員　「特別な教科 道德」の時間が、「これまでの道德の授業とどう変わっていくか」というところですよ、御質問は。

庄山委員　はい。

荻原調査員　ただ、今までは教材、もっと多分、文科省から言われているのは、大津の事件があって、いじめがあんな大きく取り上げられて、子どもたちが本当に道德の時間がしっかり心の中に、1回授業をやったからそんなに変わるわけではないんですけども、そういうやっぱり、しっかり6年間積み重ねていく、そのために「考え、議論する道德」の時間をやりましょう、というのが今回の改定の主旨だと思うので、それにふさわしい「いろいろ工夫をした教科書だな」というのは、印象として、これを見せてもらって持ちましたので、「今までの道德の時間よりは、やっぱりちょっと、『面白いな』というか、『魅力あるな』という教材文が並んでいるな」という印象は受けましたので、「それは心して、現場ではやっていかないといけないんだな」と思っています。

庄山委員 それから、道徳の授業というのは、家庭生活・学校生活とのつながりが非常に大きいと思うんです。道徳の時間で学習をして、深化をして、それを実際に実践していくのは、学校生活の中であるとか、家庭生活であるとか、社会生活の中で実践しながら、深め、深化していくわけですけども、その中で一番大事なものは、家庭、「保護者とのつながり」だと思うんです。学校でいくらこういう勉強をしても、算数とか理科なんかは、答えが大体同じなので、 $1 + 1$ は2なので、家へ帰って保護者が「 $1 + 1$ は2じゃない。5だよ」と言うわけがないんで、これは上手いこといくんですけど、家庭生活とその道徳の授業とが、これだけ多様化してますとね、学校でこういうふうに言っても、「それはちょっとな」というふうに家庭で言われてしまうと、子どもが非常に迷うようになって、上手く子どもの中に入っていくかない。「授業だけで終わってしまう」という、形だけになるということがあるんですけど、それについてですね、「上手く家庭へ、保護者とのつながりがあるような教科書」というのは、どうでしょうか。そんなのはあまりないですか。親に私、書かすのは賛成じゃないんです。これは中々できないですから。だから、「家へ帰って、お母さんに言ってちょっとお話聞いてくる」これぐらいだったらできるかなと思いますが、「書かせて持って帰ってくる」というのは、これはもう無理だと思うのですが、その点いかがですか。

荻原調査員 私もこのノートの部分で、ノートには保護者に書かすページがあって、学習指導要領の中には、「保護者との連携」と書いてあるのですがけれども、「これだけでやるのはやっぱり難しいな」と思っています。例えば、保護者に訴えるのは、子どもたちが考えたこと、つづったことを「学年だより」や「学級だより」で「こんな勉強をして子どもたちはこんなふうに考えました。こんな考え方がありますよ。保護者の方も御意見ください」のように、便りを出すなどでやっていく方法もあります。ノートには一応、工夫はしてありますけれども、それだけでは難しいという印象は持っています。

教育長 事務局、どうですか。

教育研究支援課長 道徳の研修会、県のほうの主催の研修会とかにも出させていただいて、いろんな講師の先生のお話も聞かせていただくのですが、まずはその道徳の授業をする中で、「子どもたちの心にどのような変容があったか」というところが大事で、「こういうことを自分は気づいた」とか、「こういうところを自分は友達と話し合うことによって成長した」とか、子どものそういった内面的な変化・変容を評価します。その中で、先ほど委員が言われたように、「実際に

生活の中でそれが活かしていけるかどうか」というところについては、家庭のこともそうですけども、学校での生徒指導のことであつたりとか、そのほかの教科とのつながりであつたりとか、他との関連の中で、子どもたちが学習したことを実践に移していきます。「家庭への発信」もそうですけども、そのほかの教科につなげていくということも含めて、子どもたちが社会の中で活かしていけるように、どのようなつなぎをしていくか、ということが、一つ大きいのかな、というふうには思っています。

教育長 よろしいでしょうか。

上島委員 ちょっといいですか。

教育長 上島委員。

上島委員 「22の項目をやっこそ、初めて道德なんだろう」という話を聞かせてもらったんです。「今、こんなことが起きているから、これやる」という現場での直接的な道德もあれば、きちんと20項目を押さえて道德的資質を育むといった間接的な道德があります。今の先生にとってどれぐらいの程度だったら指導できるのか、道德として自分でやっていけるんだ、ということが一番大事と違うかなと思います。もう、先生が逃げてしまったら終わりだし、子どもが嫌がったら終わりだと思うんです。ですから、さっき言っていた「書くものがどうだ」とか「ノートがどうだ」というのは、そこら辺の観点で考えてもらったらいいですね。子どものことで。

庄山委員 そうすると、あの。

教育長 どうぞ、庄山委員。

庄山委員 先ほど、校長先生おっしゃったように、子どもたちが魅力的に考えるような内容の教科書が「津市の子どもたちに合っているな」というふうに考えてもらったと思ったらいいですね。それから、報告書での表現において、「準拠している」という表現が使われている発行者と使われていない発行者があるなど若干違いがあるのですがどうですか。

教育長 萩原代表どうぞ。

荻原調査員 8社×6学年で48冊あったので、調査員が先生の代表が4名でしたので、2社ずつ重点的に読んでもらって、この報告書を作りました。その際、全ての教科書が文科省の検定を通っているわけですから、全部「教育基本法」「学校教育法」には則っていますし、「学習指導要領」にも準拠しているというのは、もうベースとしてありますので、「準拠している」という内容が報告書に記載されているかどうかは評価として影響はないと捉えてください。

庄山委員 やっぱりそうですね。いや、書いてあるのと書いてないのがあったので、ちょっと気になったので。はい、わかりました。それで了解です。

上島委員 事務局にちょっと聞かせてもらいますけれども、この道德のことで、いろんな外からの宣伝とか、教育委員会に資料を持ってきたとか、そういったことはなかったですか。

教育長 どうですか、事務局に。

事務局 文部科学省から送付が認められている「内容解説資料」以外の資料が各学校等に送付されたという報告はありません。また、教育委員会にもそのような資料等が送付されたこともありませんでした。

上島委員 その件で例えば、調査員に対して接触されてるとか、一般の先生方に何かあったとか、そういうのを聞いていませんか。

事務局 報告はありませんでした。これにつきましても、県からの教科書採択の公正確保に係る通知文を各学校に送付するとともに、校長会においても議題とし、教育支援課長から再度確認をしております。

教育長 送られてきたものは、文科省のほうで認められているものであった、ということよろしいですね。

事務局 はい。それで、教科書会社の社員が来て接触した際に、判断に迷うようなときは、教育委員会に全て問い合わせてくださいという方向で徹底しております。学校のほうから何回か問い合わせがありました。内容は、先ほどの説明にあったような内容解説資料でした。

教育長 よろしいでしょうか。

上島委員 はい。

教育長 そのほかありませんか。

富田委員 はい。

教育長 それでは、はい。

富田委員 教科書の形式面に関することなのですけれども、先ほどの御報告の中でも、教科書の大きさとか、文字の大きさとかの話が出たのですけれども、普段、子どもの様子を見ていて、教科書のサイズにも大分違いがありますよね。それで、重さにも大分、違いがあると思うのですけれども、その辺を何か適量というか、普段、使うにあたって、大きいほうがどうか、小さいほうがどうか、というようなことがあればお聞きしたいのと。それと、文字が大きければ、読みやすいと思うのですけれども、一方でそれは、行間とか余白との関係で「読みやすさ」というのは大分、規定されると思うので、余白が狭いのもありましたよね。文字が大きいから読みやすいとは限らないのですが、「読みやすさ」というところで、「子どもたちにとってどうなんだ」という辺りのところを聞きたいのですが。

教育長 はい、どうでしょうか。

荻原調査員 まず、大きさはやっぱりランドセルに入れるとき支障があつてはいけません。一番大きい「学研」もランドセルにスムーズに入るということで、「特に大きさ的には、問題はないかな」と思います。6年生の教科書を中心にページ数を確認すると結構差があります。「東書」が「192ページ」、「学図」が「150ページ」、ノートが「52ページ」。「教出」が「152ページ」。「光村」が「208ページ」。「日文」が「183ページ」、ノートが「41ページ」。「光文」が「188ページ」。「学研」が「164ページ」。「あかつき」が「164ページ」、ノートが「64ページ」ということです。ランドセルで移動するのに、国語も上下巻に分かれていなくて、結構、6年生は重いという話を調査員がしてましたので、できたら軽いほうが良いのかなという思いは持ちました。そのために付属のノートを作って、ノートは持ち運びができるようになっているのかな、でも、教材も読まないと保護者の方にわからないしと思ったりしますので、一長一短あります。多分、担任は工夫して、毎回、毎回、持ち運びじゃなくって、ここぞというときに持って運んだりするようになるのかなとは思っています。あ

と、やっぱり「見やすい」という点で、特別支援学級を担当している者にも見てもらって、「ちょっと文字が小さいな」という会社もあり、「ある程度、大きいほうが良い」という意見は出ました。

教育長 よろしいでしょうか。

滝澤委員 はい。

教育長 滝澤委員。

滝澤委員 教科書を選ぶのは、いろいろ観点からの総合判断だと思うのですが、一つは「その教材自体が子どもたちにとって魅力的かどうか」という部分があるのと、あと、見やすい、取り扱いやすい、というのはあるんですが、先生の側で、「評価をするうえで、評価がしやすいかどうか」ということも、一つのポイントになってくるのではないかなと。あまりにも評価が煩雑な、「あっち見て」「こっち見て」ということでは、ちょっと指導するにあたって、やりにくいかなということがあります。基本的には、総合判断だとは思いますが、先生方の中でやっぱり、「評価がしやすい」という観点から見ると、一定の教科書が挙がってくると思うんですけど、そういうのについてはどうでしょうか。

教育長 いかがでしょうか。

荻原調査員 教科書が8種類あって、付属のノートがある教科書が半分に分かれているわけです。ノートの有無について、真っ先に調査員会で話し合いをしたのですが、「ノートは使いにくい」という点で一致しました。一見、便利そうなのですが、ノートに縛られて、「こうやらなくちゃいけない」という、道筋をつけられているような感じがします。子どもの実態は全然違いますので、「ここはちょっと考える時間、こんな点よりもこっちを考えさせたいな」というように勧めると、ノートのある部分が空欄になってしまう。そうすると、保護者の方は「これ学習していない」と判断します。やはり、目の前の子どもたちの実態に合わせて書かせたり、「前日の準備ではこう思っていたけれども、実際、子どもたちは違う反応をした」といったときに、違う発問をしたりして授業を進めるわけです。そうすると、「自由記述のプリントをいっぱい用意して、子どもたちに書かせて、それを蓄積して評価したほうが良いな」ということになり、調査員皆が「ノートがないほうが良いよね」ということになりました。

滝澤委員 なるほど、そういうことですね。「評価がしやすいかどうか」よりも、まずは「子どもたちに納得のいくような指導ができるか」ということですね。

荻原調査員 そうです。はい。

滝澤委員 わかりました。

上島委員 それに関わって。

教育長 上島委員。

上島委員 先ほどから、例えば「評価するのにこういうのがあったらいい」とかと言うけれど、書けない子もいるのです。道徳は、書いてない、書き方が甘いとか、ちょっとしか書いてないとか、そんなので評価してほしくないと思います。やっぱり、その子の良いところを見つけないと。書いてあるかないか、そんな問題と違って、その子のやっぱり、心の成長の問題だと思うので、そこら辺の評価をですね、難しいのだけれども、書いてあることだけで評価をしてもらいたくないと思いますね。

荻原調査員 そうですね。

教育長 そのほかありませんか。

教育長 庄山委員、どうぞ。

庄山委員 私、道徳科というのは、「日本人として生きる」という、その基礎の基礎を培うものだと思うのですよ。それで、小学校1年生から6年生、もう6年生になると12歳になってきますので、今の子どもたちが「それがついてないんじゃないかな」ということを非常に思っています。1年生は基本的な生活習慣、「嘘を言っちゃいけないよ」とか「人を傷付けちゃいけないよ」とか「おはよう、と言おうね」というような、そんな程度でいいのですが、やっぱり高学年になると中身が大切です。なかなか教科書が濃くなっていますけれども、大事なのは、日本人のアイデンティティとか、それから、日本人としての行為であるとか、全ての子どもたちが誇りを持てるようなことです。教科だとできるとかできないとかいうのがあるのですが、誇りを持って生きられる、というようなものを道

徳の授業でつけていかないとダメだと思うんです。そういうような教科書というのを選んでほしいな、選びたいな、と私は思っています。今現在、がんばっている子どもたち、オリンピックでがんばっている人たち、今現在の子どもたちにもありますけど、なんていうか、そういうような、先ほど私が申し上げたような内容の、日本人として誇りを持って生きていける、世界で生きていける、「僕らもこんなをしたいんだ」というふうな、「私たちもこういう人に憧れて、こういうふうを目指したい」というような思いになれる、教科書を選びたいと思っていますが、そういうような視点でも考えていただきましたでしょうか。

荻原調査員 はい、錦織圭にしてもね、体操の白井選手にしても、たくさんの成功した人のお話が載っているのですが、「でも小さいとき、こうだったよ」と。「小さいときから、順風満帆にずっと進んできたわけではなくて、こんな挫折やこんな失敗があつて今があるんだよ」のような観点で書かれている教材がどの教科書会社にもありました。「いろんな失敗があつたからこそ、こういう成功があるんだよ」という展開は共通していて、特に「ここは」というような差異を見つけられなかったです。

教育長 よろしいでしょうか。そのほか、何か御質問ありましたら申し上げます。

上島委員 あの。

教育長 上島委員。

上島委員 今現在の活躍してる人を選ぶのはいいのだけでも、ところがですね、何か問題あったら、その教材の取扱いが大変になります。例えば錦織圭が、ラケットをコートにぶつけて壊したこと。それを子どもは意外と注目する。「だけでもこの人、こんなじゃない」とか。そこら辺、ちょっと難しいな、という気がします。それから、もう一つは、宗教教育だったら、どっちかという決めつけてくるんです。「愛はこうですよ」となるんだけど、そうじゃなくて、道徳というのは、やっぱり、いろんな考えの中から子どもらが、集団として正しい方向に向けていくと。決めつけていくようなのではなくて、読んで感じたことを皆が言う、思ったことを言って、それが10人いたら、8人や7人は、大体こちらが思うようなことを言うと思うのですけれども、それ以外の意見も大切に議論する。そういうようなのがやっぱり、道徳じゃないかなと思います。指導者が「これを教え込まないといけない」とかですね、そういう観点でやると、

厳しいと思います。道徳って、「特別な教科」だということは、「担任が中心で全部やらないといけない」ということになってくるもので、そこら辺のむつかしきがあると思うんです。なので、あんまり複雑に考えていないで、客観的に考えて「これ、扱いやすいな」というようなものでやったらいいのではないのでしょうか。あんまり中身まで追求していったら、厳しいかと。そこら辺も考えてもらいましたよね。

荻原調査員 よろしいですか。

教育長 どうぞ。

荻原調査員 私、8社の見本本を読んで、すごく世界が広がった感じがしたんです。1冊読んだだけでも、「あっ、そうなんだ、へえー」と、興味を持って読めたので、その辺はやっぱり、「考えてもらっているな」というのは、どの教科書会社でも思いましたので、読むだけで子どもたちに響くところもあるだろうし、違う考えが出てくるだろうし、良い学習機会になるのではないかなという感覚は持ちました。

上島委員 やはり、検定を経ていますからね。

教育長 どの教科書も一定の水準に達していると。

荻原調査員 そうです。はい。

上島委員 もう一つよろしいですか。

教育長 はい。

上島委員 津市の学校では、「学びの共同体」というのをかなり研究してやっています。だから、自分らの意見を出し合って、道徳は特にそうだと思うんですが、答えが一つに決まらないので、いろんな考え方が出せるという観点でも調査研究をしましたよね。

教育長 富田委員。

富田委員 先ほどの話ともつながると思うんですけど、ねらいと内容の関係で

ね、やっぱり教科書によっては、その最初のところで「これから話すお話はこう
いうこと学びますよ」というふうに、規定されてしまっているようなものが結構
あって、やっぱり、子どもたちが自分なりに考えて、自分なりにいろんな気づき
や発見を友達同士、意見を交流し合うというのが、学習の場としては大事だと思
うので、なんかそういうふうに最初から規定してしまうのはどうかなと思いな
がら見ていたんですけども、調査研究委員会の中では、その辺のことについては、
どのような話があったかということを知らせていただきたいと思います。

教育長 どうでしょうか。

荻原調査員 「光文」の6年生を見てもらうと、教材のはじめに、この教材を通
して考えたいことや、問いなどが示唆するように書いてあり、さらに、終わって
からも、「こんなこと考えましょう」となっているので、ちょっとどうかなとい
う意見は出ていました。

富田委員 「目次」のところはどうですかね。目次もそういうふうな、割としつ
かりねらいを示唆してるものと、そうでないものとかがあったかと思いますが。

荻原調査員 「目次」は、指導者として『どの項目の教材か』というのは、書
いてあるほうがよい」という話は出ていました。

富田委員 教える側のわかりやすさとしてですね。

荻原調査員 そうです。

上島委員 ちなみにこれに関しての「指導書」も出るということですよ、今後。

事務局 出ます。

上島委員 指導書に、教材のねらいが記載されていますから、教科書に書かれて
いなくても先生方としては良いですよ。

荻原調査員 よろしいですか。

教育長 はい。

荻原調査員 ただ、教科書では「この項目で勉強しましょう」といっても、純粹に一つの項目だけというわけではありません。ですから、一つの教材文だけで「この項目だけを勉強しましょう」と、そんなカチツとしたものではなく、幅広く勉強できるのだとは思っています。

上島委員 教材自体はいろいろな項目と関係してきますが、「ねらい」だけは別だと思えます。

荻原調査員 そうですね。

上島委員 子どもの側からどんな考えが出てきてもいいですが、「今日は、このことを、子どもたちに学習させる」ということだけは掴んでいないと、学習は深まらないですね。その点がはっきりしていたら良いと思うんです。

教育長 三重県全体で、どの教科も「めあて」というのをキチツと設定して、ということで、道徳も当然、今おっしゃったように「ねらい」「めあて」というのが、当然はつきりあって、というふうには思うのですけれども。

事務局 例えば「正直、誠実」という内容項目を指導するわけですが、教材によっては「親切、思いやり」とか、「友情」とか「感謝」とか、複数の内容項目が絡み合うのが普通です。主としてこの内容項目を指導するけども、他の内容項目も複合的に絡んでくる、ということをして、指導者としては視野に入れて、子どもたちにいろいろな切り口で考えさせる。それが「考え、議論する道徳」ということで、「多面的・多角的に見て、考えていこう」という点は、道徳のポイントになっています。ただし、「中心になるのはここなんだ」というのは当然、捉える必要があります。

上島委員 道徳の教科書をただやったらいいのではなくて、指導する者は「今日のねらいは何だ」ということを持っていかないと、「はい、今日は何ページ開いて」だけではダメだよ、ということですよ。

教育長 それはもう、当然、そんなふうに行っていきます。庄山委員。

庄山委員 どこの教科書とは言いませんけど、これ、ずっと前に一回、一番最初に見たときに思ったんですけど、教科書の中身が左ページから始まっていたり、右ページから始まっていたりします。項目が一番最初の題材、14とか書いてあ

って、下に何って書いてあるのですが、それで、その後に文章が書いてあるのですが、それとその題材の名前とか、本当にこれ、どこ見てもね、「えっ、どこから始まるの」というものがありましたね。これはちょっと、子どもたちにとっては非常に見にくい、扱いにくい教科書ではないかなと思うのがありました。

上島委員 それは検討しましたよね。

荻原調査員 そうですね。

教育長 「扱いやすさ」ということですね。

庄山委員 はい、「扱いやすさ」ということです。

教育長 考えていただきたいと。あと、どうでしょうか。いろいろと御意見いただきまして。各社についての御意見・御質問はよろしいでしょうか。それでは、先ほどの御報告というようなことを受けまして、調査研究委員会事務局から「調査研究結果」のをお願いしたいと思います。

教育研究支援課長 よろしく申し上げます。それでは、7月19日に開催しました「第2回 津市教科用図書 調査研究委員会」の主な協議内容について、御報告をさせていただきます。まず、津市教科用図書調査研究委員会として、協議概要の説明の後、調査研究結果を報告いたします。委員のお手元に、「調査報告書」というのがあると思うんですけども、その中にどの出版社も「内容の選択及び扱い」、それから「内容の程度」、それから「内容の構成及び配列」、それから「創意工夫」、「使用上の便宜」ということで、その各項目によって、特徴のあるものが報告として挙げられており、その項目に沿って協議をしました。その主な協議内容について、まず、「内容の選択及び取扱い」につきましても、どの出版社も、「いじめの克服」が大きな柱であるということから、いじめ問題についての対応はきちとなされているかどうか、というところを協議をいたしました。それから、挨拶であるとかルールやモラルですね、そういったものについては、枠にはめたような教育になりがちですけれども、子どもたちが考え、議論する中で、子どもたちの感性を育むような、内容・教材が大切ではないか、ということも協議しました。それから、調査員代表からの報告の中にもありましたように、教科書によっては国語の物語文ではないかというように、国語の教科書をイメージさせるものであったりとか、または、低学年の内容が生活科の教科書の内容と重なって、「生活科の教科書ではないのか」と思うような、そういった重なるような

ものもある、というふうなところから、道徳の教科書として、子どもたちが考えたいくなるような、皆が読みたくなるような、そういったテーマを素材として持ったものであるかどうか、という点も協議しました。それから後、今日的な問題、課題、例えば情報モラル等は、実生活により近い教材が掲載されているかどうかということも検討しました。

また、「ジェンダーの視点」で、そういったものに立った教材であるかどうかという点につきましては、教員が教室の中に、性的マイノリティーの子どもが存在するという点もありますので、そういったことも想定して授業を進める必要があるという視点でも教材の協議をいたしました。

それから、どの教科書を使用するにしても、学級の子どもや地域の実態によって、教科書の教材をそのまま使用するのではなく、指導の仕方であるとか、取扱方法を変えたり、時には教材自体を差し替えるということも必要になるのではないかと、ということも話し合いました。

最後に、先程、委員のほうからもありましたように、この教科書の中に掲載されている写真であるとか、取り扱われている人物であるとか、そういったものが、例えば今現在の政治家が写真でアップされているような、そういったものがあるんですけれども、取り扱われてれている写真などの資料についても話し合いました。

次に「内容の程度」につきましては、各学年の発達段階に応じて、「教材が子どもにとって難しかったり、それから扱いにくかったりするものはないかどうか」ということが話し合いました。先ほど調査員代表からも、「いきなり1年生で沢山の文章を読んだり書いたりするような教科書がある」というふうなこともありましたけれども、そういったものはどうかという点も話し合いました。それから「幼稚園から小学校への接続」を考えると、小学校の1年生については、文字が読めない子もいますので、文章が多いと負担過重になるのではないかと、ということで、導入教材については、やはり配慮が必要ではないかということも話し合いました。

「内容の構成、及び配列」については、これも委員のほうからも先ほど御意見にもありましたけれども、あまり書かせるということが中心になっていくと、しっかりと「子どもたちが考えて議論する」というふうなところまで及ばずに、道徳が嫌いになるというふうな可能性もあるのではないかと、「中身によっては、教材によっては読むだけでも価値のある教材もあるのではないかと」ということも話し合いました。それから、これは保護者の委員から、「道徳は学校だけで完結するものではなくて、家庭で話し合うことがとても大切だと思っている」という意見が出されました。その観点から、子どもと保護者の両方にとって、読みやすく、そして取り組みやすいものがないのではないかと、そういった視点からも話

し合いました。

「創意工夫」については、教科書を分冊化しているもの、それからノートをつけているものといった、いろいろな工夫がされているのですけれども、例えばノートをつけているものについては、その「ノートに書かせる」という点で学習内容が制限されていくことが考えられますので、「使いにくいのではないか」という意見が活発に出了ました。それからワークシートや指導書であったりとか、それからホームページなどに、これから各教科書会社がアップしていくというふうなことも聞いておりますので、先ほど校長先生からの話にもありましたように、ノートに縛られるということではなくて、「学校独自のノート」や「ワークシート」、教科書会社のホームページに掲載されてくる補助教材を含めて、そういったものを必要に応じて活用をしていけるのではないかという意見が出了ました。また、「分冊」という形で、教科書とかノートとか資料とか、いろいろ分かれているものがあると、「あっちも見てこっちも見て」考えなければいけないので、学習に支障が出る子どももいるのではないか、という点も議論しました。

最後に「使用上の便宜」についてですが、「出展が掲載されていない教科書」については、学習をその後発展させたり、深めたり広げたりする上で支障があるのではないか、という点を話し合いました。それから先ほどからも出ておりましたけれども、「教科書の大きさ」であったりとか、「文字の大きさ」であったりとか、それから、「見開きで見やすいかどうか」とか、そういったユニバーサルの視点での話も協議しました。主な協議内容としては以上でございます。

それでは、津市教科用図書調査研究委員会として、「調査研究結果」を取りまとめましたので、御報告をさせていただきます。報告書をお配りさせていただきますので、しばらくお待ちください。先ほどお伝えをさせていただきました、主な「協議内容」ということで、いろいろな観点から協議をしていただいたんですけれども、その協議結果を、お手元にお配りをさせていただきました。「平成30年度使用小学校教科用図書道徳 調査研究結果報告書」を御覧ください。「学研教育みらい」の「みんなの道徳」がもっと適切であるというふうに判断いたしました。その理由を説明させていただきます。

まず1点目は、8社とも取り上げる教材は、「学習指導要領」に準拠し、考え議論するにふさわしい教材を選んでいますが、読み比べると「みんなの道徳」には、「新たな気付きのある話」であるとか、「特に心に響き感動する話」が豊富に盛り込まれているということです。例えば、6年生では30ページであるとか、88ページ、それから、3年生の70ページです。

2点目は、「学び方」のページ、「ふかめよう」「つなげよう」「やってみよう」「ひろげよう」のいずれかを、効果的に設けることで、「違った側面」や、「違った立場」から自分を見つめ、「自分の生活や生き方を考える」、「体験的な学習活

動をする」、「視野を広げ、身近な生活や、他教科の学習に繋げる」といった多様な学びを通して、「道徳的判断や心情、実践意欲を育むような工夫がなされている」ということです。6年生でいきますと、97ページに「つなげよう」というページが設けられています。このような形で各学年に、「ふかめよう」「つなげよう」「やってみよう」「ひろげよう」というページが、半ページなのですが、つけられておまして、子どもたちが更にそこで深められるような工夫がなされているということです。

3点目は、全学年で、「表紙をめくった最初のページに、ダイナミックな写真と、心を耕す言葉によるイントロダクションがあり、学習意欲が喚起させられる」ということです。さらに、巻頭部分に、低学年であれば「豊かな心を育てよう」、中学年であれば「大きな心を育てよう」、高学年でありましたら「心を鍛え自分らしく輝こう」と、「学習の目当て」となる、大きなテーマを掲げたり、学習指導要領の4つの視点を学年に応じて分かりやすい言葉で記載したりすることによって、学びに見通しを持たせると共に、「特別の教科道徳」の学習が始まるということへの期待を膨らませるような工夫がなされているということです。例えばお手元の学研の、どの学年でも結構なのですが、一番最初のページを開けていただきますと、雄大ないろいろ、富士山の写真であったりとか、それから大きな木、大樹の写真であったりとか、そういったダイナミックな写真が、まず「心を動かす」というふうなページがあります。その次に目次、それから目次の中にいろいろな工夫もされているということです。それから4番目です。

4点目につきましては、「いのちの教育」を最重点のテーマとしておまして、「一人ひとりの生命の尊さ」であるとか、「人権を尊重することに気付くことができる教材」が多数配列されているということです。また「いじめ防止」に繋がる適切な教材も豊富で、課題の投げかけにも工夫がされているということです。6年生の88ページからずっと命に関係すること、それから人権に関係することが連続で扱われているというのが紹介されていたかと思います。

5点目は、1年生の平仮名の習得が十分でない時期の教材、例えば1年生ですと、「はりきり1年生が発達段階に合っていて、プラス思考を導く教材である」ということです。他社の教材につきましては、文字が多かったり、それから生活科の学習と重なったりする、そういった内容のものがみられたということですが、この学研のほうの最初の「はりきり1年生」については、幼稚園の委員もおりましたし、保護者の意見もあったのですが、そういった「発達段階に併せてプラス思考を導く教材ではないか」というふうな御意見もありました。

それから6点目です。「情報モラルに関わる教材」にも全学年が対応しており、中学入学を前にした6年生では、スマートフォンで連絡しあう場面を取り上げ

るなど、具体的かつ、現代的な課題について考えることができるような内容になっているということです。6年生の111ページで紹介がありましたけれども、このページについて、例えば、よく子どもたちがやり取りを、スマートフォン等でやり取りをする時に、「既読になっている」とか「なっていない」とか、読んだとか読まないとかいうふうなところが話題になるということで、中々大人がイメージをできにくい、使っていなかったらイメージができにくい場面があるんですけども、それが実際の、そういったスマートフォンの内容と同じようなものが教科書の中の教材に入れられていて、非常に分かりやすいのではないかと、工夫がなされているという意見がありました。

7点目は、巻末に「心の宝物」として、1年間の学びの振り返りを記載するページがあります。教材ごとに学びの足跡を残す構成にはなっていませんが、毎時間の振り返りについては、教科書で指示されているよりも、子どもの反応や、学習状況、時間配分等を踏まえて設定するため、教科書に書き込む、振り返りのスペースとしてはこの程度が適切ではないかということです。

8点目は、「教科書の大きさがA4版、フルカラーであるため、写真が鮮明で、文字も大きい」、「見開きの右のページから話が始まるように工夫されており、特別な支援が必要な児童にとっても見やすく、読みやすい構成になっている」ということです。ページの使い方に工夫がされておりまして、必ず右のページから始まるというふうな工夫がなされているということで、非常に子どもたちにとっては、分かりやすいのではないかということが、「文字の大きさ」であるとか、「使われている写真の鮮明さ」であるとか、そういったものと併せて評価されました。

最後に9点目です。「これまでの道徳の副読本には余り登場しなかったような図やグラフ、地図などが教材の中に取り入れられており、子どもたちの考えや議論を深めるための手助けになることが期待できる」ということです。6年生の111ページの図や、33ページのグラフ、写真であるとかが効果的で、子どもたちが考え、議論が深めやすいと、手助けになるということが、評価がされました。

教育長 はい、それではただ今の研究結果報告書につきまして、御意見・御質問いただきたいと思えます。

上島委員 はい、学研に選ばれてくるまでの経緯を教えてくださいませんか。例えば、この教科書もいいじゃないかといった、絞られてきた経緯です。

荻原調査員 まず、各調査員が2社ずつ担当して調査し、その内容から協議し、8社のうち4社に絞りました。再度、4社を重点的に見ました。その中で、3社

に絞ったのが、東京書籍・光村・学研です。この3社について、学年ごとに調査員を割り当て、比較しました。光村も東京書籍もいろいろ工夫されて、いじめにもしっかり取り組んでいますし、教材文としても魅力あるものが多いです。でも、多面的に検討した結果、6名の調査員の中で4名が、学研がもっとも良かったという評価でした。それが何故かというのが、調査研究結果報告書に記載されている9点です。ただ、すべての面で良いわけではなく、学研はジェンダーの視点が弱いなどという点がありました。でも、「魅力ある教材が学研は多いな」「読みたくなる教材が多いな」というのが調査員の意見でした。いずれの教科書においても、学級の児童の実態に応じて、場合によっては差し替える教材があることには留意する必要があるということにはなります。

教育長 よろしいですか。あと何かありましたらお願いできますか。

上島委員 じゃあもう一つだけ聞きます。この展示会に来てもらった人たちの意見が出ていますよね。こういうのは参考にされましたか。これいつぐらいにまとめが出たのですか。

事務局 調査員の調査期間と、教科書の展示期間が重なっていたので、調査員からの報告を受けて協議する調査研究委員会で検討しました資料を踏まえて調査研究をしたというふうなことになります。

教育研究支援課長 7月19日の第2回の委員会の時には出させていただいて、主な意見は、事務局からお伝えさせていただいて、それも含めた上で、加味した上での協議をしていただいたということです。

事務局 意見の中には、「ノートがあったほうが評価しやすいんじゃないか」というものと「ノートがあったらかえって扱いにくいんじゃないか」という、相反するものがありましたけれども、それらも踏まえて、一応、出された意見は全て原稿に起こしまして、参照したというふうなことになっております。

教育長 はい、他に御意見や御質問ありましたらどうぞ。

滝澤委員 どの教科書も、もちろん検定を通っているわけで、素晴らしい教科書ばかりでございましたけれども、先ほど調査員代表がおっしゃったように、私たちも見せていただいて、新たな芽が開いたり、新たに感動したりというようなこ

ともございました。津市の子どもらに、来年から使う教科書として、私も学研かなというふうに思います。

教育長 その他に何かございますでしょうか。

上島委員 調査研究、御苦勞様でございました。我々が一番心配するのは、使っている先生方や、保護者の方が、これ良いなと感じることが一番大事だと思うのです。そして、外部からの働きかけに影響されずに、公正を確保した採択という点を教育委員会として注意しなくてはならないと思います。そういったことは無いということをお聞かせしてもらっていますので、安心して調査研究してもらった結果、「一番使いやすい」という観点で決めてもらったと思っていますので。

庄山委員 教材がいくら優秀でも、やはり教え方といいますか、「指導者の力量」といいますか、「どう評価し、子どもたちを育てていくか」というのが一番重要です。この教科書に関するいろいろな資料が学研のサイトに掲載されているということなので、それも併せて、また「どうやって教えていったらいいのか」、「どうやって評価していったら」ということで、先生方が検討いただいて、より良い道徳教育が出来るようにお願いしたいと思っています。本当にありがとうございました。

富田委員 感想になるのですが、僕もこの学研は結構シンプルで分かりやすく、扱いやすいんじゃないかなと思っておりました。光村とどっちが良いかなと思っていたんですけど、おっしゃられたように、光村はちょっと国語との差別化というのが、言われてみると確かに分かりにくいのかなというふうに思ったので、道徳っていうところの教科もありますし、そこで何を学んでいくかという意味では、シンプルで使いやすいという意味でもこれが一番いいんじゃないかなと思いました。どうもありがとうございました。

教育長 はい、では御意見・御質問をいただいたので、採択に入る前に、調査員代表に退席いただきます。

上島委員 その前に一つだけお願いします。

教育長 どうぞ。

上島委員 教科書採択後も、現場の職員等と教科書会社の接触については、公正

公平な採択の確保に向けて、十分注意してもらする必要があります。接触の内容によって、関係が出来てしまうと、以後の採択に対しても、影響がありますから。

—休憩—

教育長 はい、それでは再開させていただきます。それでは、今から実際どの教科書を採択するかというふうなことでのご意見を言っていただきたいと思います。

教育研究支援課長 採択に向けたご意見ということで協議をしていただければ。

教育長 先ほども既におっしゃっていただいたんですけれども、それに加えて、こちらの方からどうぞ。

富田委員 それじゃあ。学研が一番サイズが大きかったのも、そのところが心配ではあったのですけれども、別にランドセルに入るのは一緒なのでというふうなこともありましたし。で、厚みがそんなに無いんですよね、これって。だから他と比べても比較的軽い方だとは思いますが、その辺が良いかなということ、それから先ほども言いましたけれども、非常にシンプルな造りで、内容的にも、ねらいと内容の関係で、押し付けがましい印象が無いな、というような感想は持ってましたので、実際に授業で運用していく上でも非常に使いやすいのではないかなと思います。

庄山委員 他の教科書も非常に印象が爽やかで良いのがございました。でも学研は、開くと調査委員長さんもおっしゃったように、表紙をめくった最初のページが、感性に訴えるという点で効果的だと思います。それから、版が大きいだけに字も大きく、題材の字がしっかりとしているのも、子どもたちに、今からどのような内容を学習するのかが、例えば「古き良き心ってなんだろう」ということをきちっと印象付けるような字の大きさになっていると思います。字が非常に小さくて、どれが題材かなと分からない教科書もございまして、これはそういう意味ではスッキリと、子どもたちが扱いやすいように作られていると思います。また、中身につきましては、検定を通過しているので、全ての教科書は。素晴らしい内容でございまして、各社とも非常に工夫されているな、というのを感じました。ですけれども、来年から津市の小学生が使う教科書として学研が相応しいかなと私は思います。

教育長 ありがとうございます。

滝澤委員 庄山委員とまったく同じ意見なのですが、当初、大きさの面で、ちょっと大きすぎるかな、重すぎるかな、取り扱いどうかな、とは思ったのですが、ページをずっとめくっていくと、非常に見やすく、目次も大きく、そしてカラーで番号も色が変わっているとかですね、ページごとに、各ページが工夫されていて、特に低学年は学習に入りやすいような工夫がされていると思います。先ほど、庄山委員も言われたように、この第1ページ、この右端ですね、これが非常に子どもの心に印象深く残るんじゃないかということで、非常に良いのではないかと思ったところです。題材の取り上げ方、それからそれを更に深めていくページの記載の仕方、あるいは書く分量ですね、シンプルで適切に授業が進んでいくような印象を受けましたので、調査委員の方がご研究の通り、学研のこの教科書で問題無いのではないかなというふうに思っております。

上島委員 今までですね、どっちかって言うと副読本を中心にやってきたと思います。で、これは教科書だということの認識を十分持ってもらう必要があります。「津市が決めたのはこの教科書なのですよ」、ということを徹底させてもらいたいと思います。津市として相応しい教科書を決めたのだということを知ってもらい、今後、道徳の教科書だということの意識を先生方に持ってもらう取り組みを是非ともしていただきたいと思います。

教育長 皆さん大体御意見言っていただきましたけど、よろしいでしょうか。

教育長 それでは平成30年度の「使用の小学校用の、特別の教科道徳の教科書」として、「学研教育みらい」の「みんなの道徳」を採択するという事で決定してよろしいでしょうか。

一同 はい

教育長 はい、御賛同いただきましたので、それでは津市教育委員会としましては、平成30年度 使用小学校用の特別教科道徳につきましては、教科書として学研教育みらいの「みんなの道徳」という事で採択するという事に決定いたします。それではこれで、議案第31号の審議は終了しました。その他に何か。

教育研究支援課長 今後ですが、8月中に県教育委員会に、採択教科書の報告をいたします。その後、県が全ての市町の採択結果を取りまとめて発表するという

流れになっております。9月中に発表されるというふうに聞いております。ただ、学校は、教科書の需要数を8月中に報告しなくてはならないということもありますので、各学校長には採択教科書を伝えます。

教育長 よろしくお願ひします。